

令和5年度岩手県立農業大学校外部評価懇談会報告書

- 1 日時 令和6年2月26日(月) 13:30~14:45
- 2 場所 岩手県立農業大学校 農業研修館研修ホール
- 3 出席者

構成員 (座長)	岩手県立大学総合政策学部教授	吉野 英岐氏
構成員	岩手県高等学校教育研究会農業部会会長	菊池 郁聡氏
構成員	J Aいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長	山崎 勉氏
構成員	岩手県認定農業者組織連絡協議会会長	高橋 喜儀氏
構成員	岩手県農業農村指導士協会会長	青沼 純一氏
構成員	岩手県農村青年クラブ連絡協議会会長	高橋 真樹氏
構成員	岩手県立農業大学校父母の会会長	村上 光太郎氏

4 評価結果

- (1) 令和5年2月に実施した学生、父母等、職員への学校運営に関するアンケート調査結果及び次の各項目の取組内容の自己評価結果に係る意見・要望をいただき、次のとおり項目の全てにおいて、自己評価結果と同じ評価を得た。

1 新規就農者の確保育成	<u>A</u> (A)	() は自己評価を示す。
2 多様な担い手の育成	<u>A</u> (A)	
3 農大の機能強化推進	<u>B</u> (B)	

- (2) 各項目の主な意見等

ア 新規就農者の確保育成

- ・せっかく農業を志している若者がいるのに、定員割れ状況が長く続くと、学習意欲の停滞、入学辞退が増えることを心配している。
- ・定員関連について、学生確保ということで前年度から入学生数が増えており、少子化の中でかんばっていると感じている。
- ・素晴らしいなと思うのは、家畜人工授精師の合格者数、合格率。反面、少し頑張っただけで欲しいのは大特免許取得。
- ・卒業研究成果発表について、研究内容とその販売という2つの課題の発表という形になっているものが多いが、両者の繋がりが薄いように感じる。両者が繋がるような指導をしてはどうか。

イ 多様な担い手の育成

- ・新規就農者研修において、時間の制限があるとは思いますが、もう少し入り込むところがあってもいい。

ウ 農大の機能強化推進

- ・施設を整備することは、高校生の進路選択、農大への出願につながり、応募もどんどん伸びていくと思う。整備計画を早めに検討すべきである。
- ・学校でしっかり学んで就農する方たちが岩手を支えていく。数ではなく質だと思うので、何名増やすという目標もいいが、着実に学生を送り出すという質の確保にも努力してほしい。
- ・若手農家、就農したい人をどう支援するか。学校を卒業して農大に入学するものいいし、就農してからも学べるなど、フェイドアウトしないような支援が重要。

- ・農村青年クラブでも農大と交流したい。
- ・農大を出ると就農する学生が多いなど、教育の効果を卒業後も持続できることが検証できれば、施設整備の意義を理解してもらえる。様々な成果を挙げて施設整備につなげていくべき。施設を持っている以上更新は当然なので、その機能を落とさないために、しっかりと結果を出し、入学者を確保した上で、アピールしていくべきである。